

「北海道産和牛」の更なるブランド化を推進

当社では、「第3回枝肉勉強会」を帯広で1月11日に開催いたしました。

本勉強会は、系統利用生産者の生産意欲向上や優良枝肉の生産方式調査、当社製品に対する利用者の評価意見収集を目的としています。2017年度より毎年1月に開催しており、19年度は道内各地より16戸の生産者の皆さまに22頭の黒毛和牛を出品いただきました。

勉強会前日には、枝肉を出品していただいた生産者11名、購買者9名を含む計69名にお集まりいただき、当社社員による他産地和牛に関する研修会及び生産者と購買者の和牛生産に関する情報共有の場として交流会を開催しました。

和牛の国内産地競争、国際間競争が激化している昨今、購買者と生産者の交流の場を設ける事で、多様化するニーズ等の情報を直接交換いただき、「北海道産和牛」の品質向上につなげ、ひいては北海



褒賞式で受賞者のご努力を称えた



交流会では、垣根を越えて親交が深められた

道畜産の更なる発展に結びつけていきたい、と願ってやみません。

生産者が購買者に対して「直接PR」できる場を提供する事で、「北海道産和牛」の更なるブランド化推進の一助となればと考えております。

今後に向けては、関係者を対象に過去3年間の勉強会・交流会を振り返るアンケートを実施。この結果をもとに、開催時期の変更をはじめ、勉強会の入賞牛、出品牛を実際に食する場の提供など、新たな取り組みを検討しています。



枝肉勉強会の講義

引き続き、生産者の皆さまの出荷成績及び生産意欲の向上を目的とした仕組みづくりを考えていきたいと思ひます。



(番組イメージ)

TV番組で当社工場・社員が紹介されます

昨年、当社では会社PRも兼ねたリクルート用DVDを制作しました。

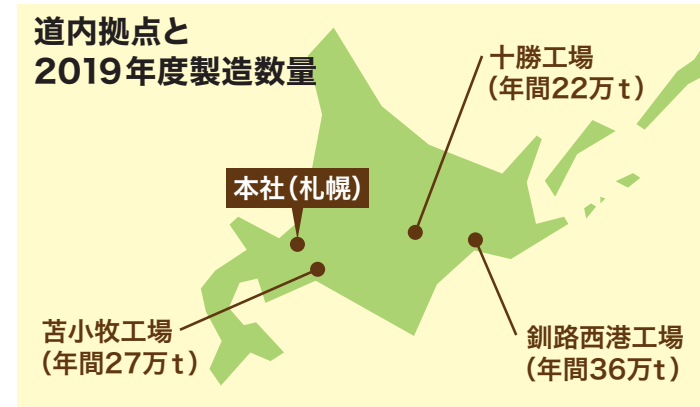
製造現場撮影時に、硬度耐久性、粉化率低減にこだわった製造をしている当社社員に、畜産生産現場を裏方で支えている職人として制作ディレクターが着目し、北海道の農業教育テレビ番組「あぐり王国北海道NEXT」(HBC北海道放送)にて、紹介される予定です(放送日程は未定)。

全力結集

全力結集で挑戦し、未来を創る

JA全農グループでは、安全で安心できる飼料を全国の畜産生産者様に安定的に供給し続ける事を使命としています。この事業を北海道で展開している、「ホクレンくみあい飼料株式会社」。今回は、同社の概要と取り組みについてご紹介します。

ホクレンくみあい飼料株式会社



高品質で安全・安心な飼料を安定的にご提供

私どもホクレンくみあい飼料株式会社は、1974年に設立された2017年にはホクレンと全農との事業連携の強化によって全農の子会社となると同時に、ホクレンの関連会社として、新たなスタートを切りました。

本社(札幌)をはじめとして、釧

路西港、苫小牧、十勝に3つの工場を持ち、19年度の年間製造数量85万t、道内シェア22%となっています。当社の生産部門を担う3工場について簡単に紹介いたします。

①釧路湿原にほど近い釧路市西港に拠点を置く「釧路西港工場」(19年度製造数量36万t)では、搾乳ロボット用飼料を年間1・2万t製造(オールペレット製品)するほか、道内で原料として唯一タンパクのバイパス率を向上させる加工を行った大豆タンパクを年間1・5万t製造しています。

②道内有数の工業地帯に拠点を置く「苫小牧工場」は、牛用飼料を製造するA工場と、鶏・豚用飼料を製造するB工場を有する総合工場(19年度製造数量27万t)です。21年12月には当社と雪印種苗株式会社との合併によるホクレンくみあい雪印飼料株式会社の新工場稼働を予定しています。

③農業大国・十勝に位置する「十勝工場」(19年度製造数量22万t)は、牛専用飼料の純ばら工場として稼働しており、自動立体倉庫を



バイパスタンパク飼料(釧路西港工場)

利用した小ロット製品への対応も行っています。また同工場では、循環型農業への協力的一端としてバイオガス電力を使用しています。電力の供給源は、JA士幌町が取り組むバイオマス事業によるものです。

どの工場も地域の畜産や酪農の特性に合わせた飼料づくりを通して、酪農・畜産経営に欠かせない飼料供給の要として北海道に根差しています。